

【前期評価】平成25年度 萩市立明倫小学校 学校評価書 校長名(柳林浩一)

<p>1 学校教育目標</p> <p>「伝統ある明倫館の学風および松陰先生の教育精神に学び、さらに格調高き明倫教育の創造に努め、もって国家社会の形成者となる有能な人間の育成を図る。～人としての生き方を学び、共に高まりあう子どもの育成～」を基調とし、次の4つの項目を中心に伝統をふまえた創意ある教育活動の展開に努める。</p> <p>① 保護者や地域社会との連携を深めて教育活動を充実させる。【開かれた学校づくり】</p> <p>② 主体的に学ぶ学習活動の展開に努める。【熱く燃える心、学ぶ力や創る力の育成】</p> <p>③ 心豊かな感性を育む教育の推進に努める。【温かい心、生き抜く力の高揚】</p> <p>④ 安心・安全な学校づくりを推進する。【安心・安全な学校づくり】</p>

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>○特色ある学校づくり ○朗唱や松陰読本と児童の生活を結び付けるための指導や家庭との連携した取組が定着してきている。校長室だよりの発行や学校だより等の様々な情報発信をしてきた。</p> <p>○学力の向上 ●松陰教学に取り組む意義や実施方法を共通理解し、道徳の公開授業等による実践の検証・改善がもたえられる。より分かりやすく必要な情報を積極的に発信する必要がある。</p> <p>○心の教育の充実 ○「書く活動」「高め合う活動」を重視した計画的な校内研修を通して、授業改善による学力の向上を進めることができた。自主学習を全校的な取組として実施することができた。</p> <p>○安心・安全な環境づくり ○「7mのあいさつ」の具体的な指導が効果的で児童の変容として表れ、保護者にも理解が広がった。「志」をもってみんなのために取り組む児童が増えた。</p> <p>○業務改善 ●児童の主体的な取組を意図的に設定し、「志」をもたせる目標設定のあり方や働きかけの方法を教員間で共有し、教育活動の充実を図ることがもたえられる。</p> <p>●特別支援関係の研修や定期的な会議、日々の情報交換により教員間が意思の疎通を図り、担任一人が抱え込むことなく、連携して対応にあたることができた。</p> <p>●相手を意識して行動することの意義を伝え、全教職員が同じ思いで指導にあたることもめられる。委員会活動等、児童の主体的な取組を進める必要がある。</p> <p>●会議の効率的な運営と時間短縮により会議の延長時間を縮小し、学級事務の時間確保を意図的に実施してきた。業務データを適切に管理し、業務の効率化につながった。</p> <p>●会議の内容についての精選と新たな試みに対する傾注を図り、業務改善で生み出された時間を児童への教育活動に還元することがもたえられる。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>「ひたむきで めくもりのある さわやかな明倫小学校」をめざす学校像として掲げ、次の4点を重点的に取り組む。</p> <p>① 特色ある学校づくり: 心を育て、才能を伸ばす教育として、「成徳達人」と「松陰教学」を基底に据えて推進する。朗唱や松陰読本の活用についての授業等の実践を進め、家庭や地域に効果的に情報発信を行う。</p> <p>② 学力の向上: 動機づけや意欲づけを大切に、教師の手立てを明確にした授業改善を中核にすえての学力向上や、自主学習や読書等の家庭学習の充実に向けた取組を家庭と連携して進める。</p> <p>③ 心の教育の充実(明倫小ABCの充実と発展): (A) 相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」を実践する。(B) 美しい心と美しい環境づくりに努める。(C) めあてに向かって主体的に取り組む児童を育てる。</p> <p>④ 安心・安全な環境づくり: いじめのない楽しい学校づくり、一人ひとりの理解に努める生徒指導を推進する。全教職員が共通理解した組織的な指導と児童の主体的な取組の両面を大切に推進する。</p>

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
特色ある学校づくり	松陰教学の推進	○松陰教学(朗唱・松陰読本の活用等)を根幹とした教育活動を展開する。 ・朗唱、松陰読本とかかわりのある教育実践(道徳・キャリア教育)の推進	4: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が80%以上 3: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が60%以上 2: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%以上 1: 松陰教学にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%未満	4	89%の教員が、肯定的な評価をしている。朗唱文から各自のめあてを設定し、家庭と連携しながら継続的に取り組んでいることや、松陰読本を活用した授業や児童の自主的な朗読活動等から高評価となっていると考えられる。今後、情報発信の工夫や授業等での積み重ねをしていくことが求められる。		
	保護者・地域との連携強化	○積極的な情報発信を行う。 ・学校だより、学年・学級だよりによる教育活動についての積極的な情報発信	4: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が80%以上 3: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が60%以上 2: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%以上 1: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%未満	4	96%の保護者が、肯定的な評価をしている。教員も、96%であり、積極的な情報発信ができていくことが評価されている。学級だよりによる学級の具体的な活動の様子を発信したり、各種だよりも期待されている。内容面で工夫・改善を進めながら、指導すべきことも伝えていく必要がある。		
学力の向上	学力向上プランの改善と実践	○学力向上プランの改善を図る。 ・家庭学習の充実 ・自主学習の推進	4: 家庭学習(学年×10分)が充実していると考える保護者が80%以上 3: 家庭学習(学年×10分)が充実していると考える保護者が60%以上 2: 家庭学習(学年×10分)が充実していると考える保護者が40%以上 1: 家庭学習(学年×10分)が充実していると考える保護者が40%未満	3	73%の保護者が、肯定的な評価をしている。一方、教員は89%であり、保護者の評価とは少し開きがある。自主学習の内容や仕方については、学級だよりやノート展示等で、児童に示すとともに、保護者にも具体的に情報を提供することが求められる。		
	授業研究・授業評価をととした授業改善	○高め合う活動の充実を図る。	4: 書いてかかわり合うことをもとに高め合うことができた児童が80%以上 3: 書いてかかわり合うことをもとに高め合うことができた児童が60%以上 2: 書いてかかわり合うことをもとに高め合うことができた児童が40%以上 1: 書いてかかわり合うことをもとに高め合うことができた児童が40%未満	4	82%の児童が、肯定的な評価をしている。校内研修において、年度当初から研究テーマを職員で共通理解して取り組んでいることが、児童にも浸透してきている。教員の評価は74%であり、授業改善を共通認識のもとでさらに進めていく必要がある。		
心の教育の充実	明倫小(A)	○相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」ができる児童を育てる。 ・「相手の目を見て、いい顔で、相手より先に、続けよう」	4: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が80%以上 3: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が60%以上 2: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%以上 1: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%未満	4	88%の児童が、肯定的な評価をしている。教員も93%で、学校全体で「7mのあいさつ」に継続的に取り組んでいることが高評価につながっている。一方、保護者は79%とやや低くなっている。家庭との連携によるあいさつ指導が求められる。		
	明倫小(B)	○心を美しく磨き、美しい環境づくりができる児童を育てる。 ・いじめを絶対にしない ・履物を揃える ・花壇の世話をする ・とりかかりを早くし、黙って時間いっぱい掃除をする	4: だまって一生懸命清掃ができた児童が80%以上 3: だまって一生懸命清掃ができた児童が60%以上 2: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%以上 1: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%未満	4	86%の児童が、肯定的な評価をしている。教員は84%であり、児童・教員ともにやや高い評価となっている。各担当が児童とともに師弟同行で、指導をしながら取り組んでいることが高評価につながっている。しかし、実態としては無言清掃ができていない児童もいるため、無言清掃の必要性を、学年に応じて今後も継続的に指導していくことが求められる。		
	明倫小(C)	○自ら主体的に取り組む活動を設定する。 ○夢や志をもたせ、具体的な目標に向けて挑戦する心情を育てる。	4: 児童がめあてをもって取り組むよう働きかけたと考える教員が80%以上 3: 児童がめあてをもって取り組むよう働きかけたと考える教員が60%以上 2: 児童がめあてをもって取り組むよう働きかけたと考える教員が40%以上 1: 児童がめあてをもって取り組むよう働きかけたと考える教員が40%未満	3	75%の教員が、肯定的な評価をしている。保護者は81%、児童は89%である。各学期の個人のめあて設定や授業でのめあて提示など、児童がめあてを意識して行動できるよう取り組んでいるが、今後も児童が主体的に取り組める場作りを、意識して設定していくことが必要である。		
安心・安全な環境づくり	安心な環境づくり	○温かい人間関係づくりに努める。 ・教育相談の充実 ・配慮を要する児童への適切かつ組織的なかかわり	4: 配慮を要する児童への対応が改善したと考える教員が80%以上 3: 配慮を要する児童への対応が改善したと考える教員が60%以上 2: 配慮を要する児童への対応が改善したと考える教員が40%以上 1: 配慮を要する児童への対応が改善したと考える教員が40%未満	4	88%の教員が、肯定的な評価をしている。隔週の生徒指導情報交換会で、配慮を要する児童についての情報共有や対応を協議したり、関係職員での校内会議等で協議したりして、組織的な取組をしている。今後も外部機関との連携を大切にしながら、対応を効果的にしていきたい。		
	安全な環境づくり	○適確な安全指導を行う。 ・無言の教室移動 ・正しい廊下歩行 ・安全な登下校	4: 交通ルールを守って安全に登下校ができた児童が80%以上 3: 交通ルールを守って安全に登下校ができた児童が60%以上 2: 交通ルールを守って安全に登下校ができた児童が40%以上 1: 交通ルールを守って安全に登下校ができた児童が40%未満	4	94%の児童が、肯定的な評価をしている。教員は肯定的な評価が88%であり、登下校への指導を継続して取り組んできている表れである。あわせて、放課後や休みの日における自転車の乗り方や自分の身は自分で守るなど、機会をとらえながら指導する必要がある。		
業務改善	学校の組織等						
	会議の時間短縮	○会議の効率的な運営を図る。 ○会議の精選を図る。	4: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が80%以上 3: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が60%以上 2: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%以上 1: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%未満	3	66%の教職員が、肯定的な評価をしている。会議の時間短縮は進んできて、昨年度より短くなったと感じる教職員もいる。企画会で協議を十分にし、職員会議では検討内容を明確にして進め、時間短縮につなげた。		
	日常的な業務						
	仕事の効率化	○データの管理・活用による業務の効率化を図る。	4: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が80%以上 3: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が60%以上 2: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が40%以上 1: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が40%未満	4	88%の教職員が、肯定的な評価をしている。データの共有化が図られてきているが、教職員によって意識の差がある。データ管理やメール処理等、全職員で周知、徹底していきたい。		
	勤務状況						
勤務状況の改善	○時間外勤務時間を減少させ、勤務状況の改善を図る。	4: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が80%以上 3: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が60%以上 2: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%以上 1: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%未満	2	51%の教職員が、肯定的な評価をしている。昨年度よりよくなったが、会議等の内容を改善しながら時間確保に努め、教材研究や子どもとかかわりの時間を増やすことへつなげた。			

<p>6 学校評価総括(取組の成果と課題)</p>

<p>7 次年度への改善策</p>
